

まんが

世界に羽ばたく!

## 千野黄門 第13話

絵 YAYOI



※iPS細胞技術が不老長寿をもたらすというエビデンスはありません。  
刊行未定『千野直一のリハビリテーション』

### お知らせ

**一次救命処置講習会**(平成25年8月27日  
NPO法人東京多摩リハビリ・ネット主催)

**第11回 看護師とコメディカルのためのFIM講習会 基礎編・応用編**(平成25年7月7日 杏林大学・NPO法人東京多摩リハビリ・ネット共催)

以前からきかれていたご要望に応え第10回からは応用編も同時開催しております。前回よりも多くの参加者にご来場頂くことができました。(参加者 基礎編205名・応用編65名) 次回は平成25年12月開催を予定しております。



### 学会報告

#### 第50回日本リハビリテーション医学会学術集会 (東京 2013年6月13日~6月15日)

千野センター長による50周年記念講演(13日)「リハビリテーション医学の専門性を求めて -物理医学とiPS細胞-」が、盛況の中、開催されました。流暢な英語で、御自身も指導的立場から研究に関わってこられた再生医療の発展と、脊髄損傷者等への治療の実現可能性、そしてその際にリハビリテーションが果たす役割について、御講義され、物理医学としてのリハ医学の発展の重要性について御提案されました。

同記念講演では、共に千野先生の旧知である、韓国リハ医学会会長の Tai Ryouon Han先生(Seoul National Univ)が、日本のアジアリハ医学発展への貢献の重要性について論じられ、米PM&Rチェアマンの Walter R. Frontera先生(Vanderbilt Univ)が、リハ医学における研究の重要性について、御講義されました。



同日昼には、「A型ボツリヌス毒素製剤と神経筋接合部」と題したランチョンセミナー(共催:グラクソスミスクライン株式会社)が開催され、こちらも大変盛況となりました。御講義内容は、リハ医学会誌に掲載された最新の同名論文に沿ったテーマで、ボツリヌス治療の解剖・組織化学・電気生理学的基礎を論じ、当法人での同治療の成果の一端にも触れる内容でした。

**E-SAM展示出展** 東名ブレース株式会社ブースにて、本年度は研究機器としての完成品E-SAM@100を展示し、当法人関係者も機器説明の支援を行いました。近く限定的研究機器販売を開始する予定です(特許:痙性測定装置 第5297516号取得済 発明者:千野直一、村岡慶裕、石濱裕規、奥村庄次)。

**発表** 当法人関連で7題の発表がありました。当法人におけるボツリヌス治療技術と治療成績に関する、都丸、團、五十嵐各先生の口頭発表3題は、いずれも動画や統計に有意な改善データを含めた注目度の高い内容となり、会場は立ち見が多く、同治療への関心の高さを伺わせました。同じく、五十嵐先生より、「長期経過観察が可能であった高齢股義足歩行者の一例」、野本先生より、「回復期リハビリテーションの栄養管理にペムバルアクティブを用いた一例」が、ポスター発表されました。また、新任の大高先生より、多系統委縮症とADLに関する発表2題がありました。今後の御活躍に期待しております。

#### 第48回日本理学療法学会学術大会 (愛知 2013年5月24日~26日)

当法人からは4演題の発表がありました。腰痛や脊椎安定性に影響を与える腹横筋運動課題の検証(中西 他)や、地域在住高齢女性の尿失禁に関連する検討(瀬戸 他)、人工膝関節全置換術の脛骨インサート角度が術後の膝関節屈曲に及ぼす影響(稲川 他)といった、日常の臨床に則した発表でした。またスマートフォンを利用した身体バランス計測器の開発(木野田 他)も発表されました。

#### 第47回日本作業療法学術大会 (大阪 2013年6月28日~30日)

当法人からは3演題の発表がありました。作業療法士の職業的アイデンティティに影響する要因の分析(中本 他)や、高次脳機能障害者への集団リハビリテーションにおける自己認識の変化(上野 他)、作業活動が慢性的な痺れに及ぼす影響(佐藤 他)などが発表されました。

**国際老年医学会** The20th IAGG World Congress and Gerontology and Geriatrics(Korea, June 23-3-27 2013)において、脳卒中と熱傷を伴う患者への作業療法に関する報告が発表されました。(An Application of Occupational Therapy Interventions for An Older Patient With Burn And Stroke, M. Uchida et al.)

#### 第14回日本語聴覚学会 (北海道 2013年6月28日~29日)

当法人からは6演題の発表と、座長としての参加がありました。二次救急病院におけるST介入について(石山 他)や、失語症例の言語機能改善における知的機能と発症年齢の影響(小川 他)、八王子言語聴覚士ネットワークによる市民への普及啓発活動(白波瀬 他)、失調性構音障害症例の誤りの分析(古田 他)、地理的障害を呈した一例(矢頭 他)、集団認知リハビリテーションでの評価尺度作成(野内 他)の発表がありました。「北海道の訪問リハビリテーションを伝えよう」というワークショップでは訪問看護ステーションめだかの山本が座長として参加しました。

### 報告

多大なるご支援を賜っております、山田 深 先生(杏林大学医学部リハビリテーション医学教室 講師)に再度当センター顧問に御着任頂き、4月26日には定例勉強会で御講演を頂きました。

#### 症例検討・技術講習会 (2013年5月31日)



当法人における物理療法の普及について、村岡慶裕顧問(早稲田大学)、OG技研株式会社をお招きして、講義「物理療法としての電気刺激治療 -展望と発展-」および技術検討会を開催しました。当法人外来における低周波電気刺激の適用事例について金森主任に報告頂きました。当法人には、本年度より、新しいIVES(IVES)が複数台導入されており、活用が期待されます。



**第32回定例勉強会**は、2013年7月19日(金) 17:45 病院2階リハビリテーション室にて、当センター長 千野 直一先生による「リハビリテーション医学の専門性を求めて -物理医学とiPS細胞-」をはじめ、各学会報告を予定しております。職種間交流の目的もありますので、他部門よりの御参加をお待ち申し上げます。